環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —
Vol.39

編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財) 千葉県環境財団環境技術部
環境啓発チーム
電 話 043－246-2180
ＦＡＸ 043－246-6969

バスツアーで知る印旛沼

「印旛沼をきれいにする活動」の一環として計画された印旛沼探索バスツアーは、小学生から高齢者まで幅広い層が参加して８月２１日に実施されました。

最初に、印旛沼地区の土地改良を進めている「水土里ネット印旛沼」のセンターを訪れ、そこでオープニングセレモニーがあり、「水土里ネット」の清水理事長や「ＮＰＯいんば」の太田理事長のご挨拶のあと、田んぼや水の専門家から具体的な説明を受けました。

スーパー水田、農業用水施設の見学

印旛沼には１区画７．５ｈａ（１ｈａ＝約３千坪）の世界一広い水田がありました。広くした農地の土中には用水や排水が配管され、機械処理で作業効率の引き上げを実現していました。

驚いたことに見事に育ったコシヒカリの一部が牛などの飼料として作られ、稲は機械で刈り取られながらポイ、ポイと大きな巻物状になって掃き出されていました。

一方、印旛沼の周辺の田んぼには昔ながらの農業用水路が張り巡らされ、そのための立派な用水機場や分水工がありました。

里山散策、本埜村の白鳥

印旛沼の周辺、とくに北側には美しい里山が広がり、青々とした稲原にも古代米の黒さが目立っていました。１０月中旬になり稲刈りも終わると、水がはられた水田に白鳥が群がるようにたくさん飛んでくると地元の人が話していました。

地域の文化遺産に親しむ

かつて海であったこの地域は、利根川のご機嫌で洪水に襲われたため、その対策として作られた「水塚」や、長い歴史をもつ竜腹寺、竜水寺を見学しました。なんと竜水寺にはガチョウその他いろいろな生き物がいました。

印旛排水機場見学

印旛沼には巨大な調整池の役目があり、農業用水、工業用水、飲料水の水源になっています。水が足りなくなると利根川から取り入れ、余ると利根川に排水されます。排水機場には巨大なポンプが活躍していました。

ここで、清水理事長が持参された自宅の井戸から汲んだ「地下水」を振舞ってくださいました。水道水と飲みくらべてみたら、その味の違うこと、驚きでした。

カヌーに乗って水調べ

植木　隆典

「環境パートナーシップちば」の「印旛沼をきれいにする活動」で手軽な水調べの方法を小学生と一緒に教わり、敬老の日にカヌー同好会の仲間を誘いカヌーでの水調べを実行しました。薄日がさす曇り空の下、カヌーを漕ぎ出した時は心地良かった風が、段々強くなり波も出てきました。西印旛沼の沖に着いた時は、風と波でカヌーを同じ場所に停止させるのが難しい状態でした。金属製の杭を見つけロープをからませ、水調べを行いました。午前１１時２０分、気温２８度、水温２５度、水の色は緑色、透視度は１３ｃｍ、ＣＯＤは１８から２０という結果でした。次に双子公園さきの水草（ホテイアオイ）が群生し、ゴイサギやばんなどの水鳥がいるところに移動しました。カヌーを停めた場所から４０ｍさきの岸辺には葦が繁っていました。気温、水温は最初の地点と同じ、水の色は緑で多少澄んでいるように見えました。透視度は１７ｃｍ、ＣＯＤは２０でした。ホテイアオイが４０ｍ四方に渡って繁り、水面を覆っているので波は殆どなく、透明度も最初の地点より４ｃｍほど良くなっていました。

その後、印旛捷水路を北に進みました。追い風を受けながらゆったり漕いでいると、水路沿いのサイクリング道路を自転車に乗った人や、歩く人が行きかうのが見えました。水辺には、ゴイサギ、バン、鴨を見かけました。今回のハイライトは、真っ青な羽が輝くカワセミを初めて見ることができたことでした。水面に垂れ下がる木の枝から枝に飛び移っていました。漕ぐ手を止め防水袋からカメラを出し写真を撮ろうとしましたが、カメラを取り出した時には鳥が飛び去った後だったり、シャッターを押そうとするとカヌーが風で流されたりで、上手く撮れませんでした。

メタルアート美術館を通りすぎ甚兵衛大橋をくぐって北印旛沼に到着しました。橋の先に緑の浮島の様な物が見え、ゴイサギがいたので近づくと、遠目には島のように見えた物は畳み 10 畳ぐらいの水草の塊でした。草の名前はわかりませんが、ここで水調べをすることにしました。測定時刻は、１２時５０分、気温３０度、水温２６度、ＣＯＤは４分後で１５、透視度１０ｃｍでした。水は緑色でよく見るとアオコが混ざっていました。波のせいか、思いのほか透視度が低い結果でした。９月初めにカヌーで下った長良川の水とは雲泥の差でした。

帰りは、向かい風と波との戦いでした。波に向かって漕ぎ進むのは楽しいのですが、印旛沼の水を浴びるのは、できれば避けたい気持ちで一杯です。しかし、しぶきと汗で目が見えなくなり手で顔を拭うようになると、押し寄せる波にパドルを入れて漕ぎ進むのが快感に変っていました。カヌーの舳先が上下しながら水を切り、波が砕けるたびにしぶきを浴び、漕ぎ進むこと４０分で初めてのカヌーでの水調べは、無事終了となりました。風もなく波がない日であればともかく今回は一緒にやってくれる人がいなければできなかったと思い、改めて仲間に感謝です。

どなたか、水をきれいにする良い方法を教えてください。水調べをやっているだけでは、きれいにはなりません。一人一人が、水を汚さないことは大切ですが、同時に、今の汚れを取り除くことも必要です。どなたか、印旛沼をきれいにする方法を教えてください。私の願いを聞き遂げてください。

印旛沼を泳げるほどきれいにしたい。これが私の願いです。

私のエコメッセちば

エコメッセちば２００４実行委員　平山　明彦

1996年から、環境保全活動を推進するために、市民･企業･行政の協働の取り組みとして「環境活動見本市エコメッセちば」が開催されています。今年は平成16年8月8日（日）幕張国際会議場で「エコメッセちば2004」が開催されました。

冷房の効いた心地よい屋内、近隣の小学校を通じたPR活動、同時開催されていた「恐竜博」の相乗効果により多くの来場者があり、出展者にとっては非常に充実した出展だったのではないかと思われました。また会場が屋内であるということでも、来場者との意見交換も活発だったように見受けられました。

水しらべのブース

エコメッセの開会式

会場が大いににぎわったということ点では成功でした。しかしこのエコメッセは何を目的として開催するのかということが、初めての屋内開催ということもあり、出展者、協賛金、来場者の確保という点に関心がおかれ、あいまいにされてきました。

このイベントのミッションは何かというと「環境保全活動に参加‥実践できる人を拡大する」、いいかえれば環境問題の解決には、みんながそれぞれの立場で役割と責任を果たすことが重要ということ、さらに立場を超えて協力することが必要という理念を多くの人に理解いただくことにあるのではないかと考えます。

ガールスカウトの皆さんはエコレンジャー

それを考えると運営のための資金捻出する目的で企業の出展を増やすことが良いのでしょうか。エコプロダクツの千葉版になるとのではないかと危惧がうまれる（エコプロ千葉版でいいとの考えもあることも承知しています）。エコプロダクツはご存じのように企業の展示が主体であり、そこに市民団体が「お客さんとして無料の出展スペースを与えてもらう」という形をなしています。

千葉大学のみなさんも参加！

「エコメッセちば」から「エコメッセジャパン」に名を変えていこうとの動きもあります。

「エコメッセちば」は私たち一人ひとりが主体であり、市民･企業･行政の協働のなかで作り上げていくものあると私は考えます。環境問題に関心がある団体･個人の出展、交流が主たる目的で、環境問題の啓発というより、環境に取り組んでいる人の交流を目的に開催するのがエコプロ展との差別化であり、そのようになってほしいと願っています。

VELOTAXI も走りましたよ～～！

明日を見据え得た動きが今年のエコメッセには数多く見られました。その一例として、協働の問題としての、統一テーマ「資源循環型社会の実現」の展示、来場者とのパートナーシップ（当事者意識を持ってもらう）のための「エコツアー」、「こどもレポーター」を実施しました。またエコメッセを継続するために「エコメッセを実現する会」がを中心にエコメッセ実行委員会がつくられ、行政との協働事業費、企業からの協賛、出展費、市民カンパなどで資金的に自立できたことです。さらに多くの若い力が運営に協力してくれたことも明日の力になります。

みんなで“よさこい”も踊りました

「環境活動見本市」、あるいは「協働実践見本市」としてのエコメッセジャパンの灯がおぼろげに見えた、エコメッセちば２００４でした。

恐竜博の影響？家族連れがわんさか！

大勢のチビッコや親子連れが来場しました

環境シンポジウム千葉会議２００４

参加者の生の声

１１月１４日のシンポジウム本大会に向けて、今回、環パちばでは、皆さまの分科会での生の声を特集することにしました。ご協力くださった皆様、どうもありがとうございました！

９月５日　第２分科会　ゴミ問題「捨てるから活かす」

- 「捨てるから活かす」というテーマで今回は考えました。この世の中で捨てなくていけないものは、本当にあるのか。改めて私たちの生活を見直す必要があると思いました。
- 千葉大生の環境の取組みに興味を持ったのと、学内だけでなく地域環境を考えているところがすごいと思いました。
- 放置自転車は大学４年生が態度で行動を示し、就職活動の時に人間と自転車を受け入れてもらおう！？
- 航空機整備に関する話、６０年前海軍機を操っていただけに非常に興味があった。これからも「安全と安心」５Ｒも宜しくたのみます。
- バイオエネルギー菜の花油で車を動かすのに興味がありました。税制上の問題があるようですが。
- 各発表者のトピックがはっきりしていて、取組みについても説明がわかりやすかった。自身としては「活かす」は最後の手段と考えているのですが・・・。
- 環境改善にはリスク無くしては解決できないと思っています。
- とても期待していたのですが、あまり自分自身に活かせる内容ではなかったようです。残念！

９月１１日～１２日　第４分科会　環境教育
「子どもの未来のための環境教育－地域の力で明日から出来ること－」

- パートナーシップで今、自分が出来る事から自然環境に目を向け、実体験をしながら、環境教育を子どもたちに少しでも読書を通して伝えていきたい・
- 環境教育を自ら活動しているが、皆のエネルギーを感じました。まだまだ頑張る！
- 時間があるようでなかった。いろいろな分野で活躍されている人のお話が聞けてよかった。
- 活発な意見が交わされて、よかったと思います。
- いろいろな方面で活動されていることを知り、とても参考になります。借りたい力の情報が集まり、助かります。
- 第４分科会に参加して、１泊２日間、環境学習のことをじっくり考える場を頂いた事は、今後よい経験になったと思う。それでも時間内に納められない程、環境のもつ意味は深い。
- 自然の風が吹き抜けるのが嬉しかった。
- １１日のワークショップ、もう少し工夫が欲しかった。１２日午後は、濃い内容で楽しかった。
- ワーク、ワークで頭はいっぱい！でも、朝の散歩でどんぐりをたくさん拾ったことが嬉しかった。
- 環境教育の実態を知る機会を得たこと。多くの人と意見交換の機会を得たこと。大変ためになりました。
- 環境教育の推進に係る活動を始めたばかりで、手探り状態の中でのシンポジウムへの参加でしたが、第４分科会で２日間の場を共有させていただき、今後へ向けてのエネルギーをいただけた思いがし、大変有意義でした。皆さまに心より感謝申し上げます。
- 環境保全をする側、環境教育をする側からの視点でのみ、議論・討議されていた感があり。環境教育を受ける側の視点・スタンスの分析が必要と感じた。
- 環境保全活動に参加できる人を増やす。（＝出来れば全県民）という大目的が余り見えず、指導者・教材・拠点といった細かい方法論に終始したのが残念！
- 意外と知り合いがたくさん参加していることがわかった。世間は狭いと思った。
- シンポジウムに参加して、たくさんの人たちと仲良くなれた。ワークショップが多く、たくさん交流できたのが、結果的にとてもよかったです。

９月２３日　第３分科会　みどりとみず「地域経済と“みどりとみず”の力」

- エコマインド養成講座で紹介され、環境シンポジウム2004千葉会議に初めて顔を出してみました。
今回は、１１０名をこえる参加者であり、出

席者からの熱心な質疑応答があり感心しました。ここで学んだことは、一人ひとりが谷津田や里山の保全に取り組み、体験で理解をして、先ずは動くことです。

・ 里山（農業）の役割の大切さは、充分認識できつつあると思うのですが、実際それで通用していく手立ての面が手探り状態だと思われます。
・ 今の子ども達の心が病んでいるのが気になります。自分自身では、何かの形でやりたい気持ちですが・・・。
・ 市民活動が活発になり、谷津田や里山への市民の関心や活動がさかんになりはじめています。これからの１０年を見据えた時、やはり行政との協働（書類上だけでなく）が必要となると思いました。１０年ではなく、もっと長いスパンで“みどり”と“みず”の目を持って。子どもの参加出来るパンフレットがあるといいですね。次世代を育てるために。
・ みどり・みず保全の為には、経済問題をはずせないことが分かった。社会の複雑なシステムの中の解決策は？私たち市民がどのような生き方を望んでいるのか、改めて考えさせられた。環境問題は、広く皆で考えていける場、機会と強く思えた。
・ 貴重な“みどり”と“みず”を保全していくために、これまでと視点や取組みの方法を少しずつ改善していく必要があると改めて感じた。未来の変革のために、たゆまぬ努力が大切だと思う。

９月２５日　第５分科会　環境保全　「循環型社会を目指して」

・ いろいろな分野の事例がたくさん聞けてよかった。ただ聞くだけでなく、どうつながり、活動に幅を持たせていくかを考えていきたい。
・ 高柳氏の「人間の有機栽培が必要」とのお言葉に、環境新語と重く受け止めました。
・ 常日頃、地球環境に対して危機感を持っていますが、その意味でも大変参考になりました。特に、菜の花栽培の高柳さんのお話に感動しました。
・ 行政、企業、学校、市民連携の活動発表の場として好印象を感じました。「北総おかげさま農場」高柳氏の呼号縁には大いに共感し、考えさせられました。
・ とにかく実践ですね。連携して、できることから。
・ 各発表２０分ずつだったが、よくまとめられていて、それぞれ真剣に取組まれているのがよくわかった。いろいろな分野盛りだくさんで楽しかった。
・ 大学や企業というどちらかといえば環境に遠いところにいると思われている立場の人たちが地道に力強く取組んでいるメッセージが聴けたのは、大変良かったと思います。今後もさまざまな立場の人たちが手を組んで未来の子ども達にすてきな地球を残しましょう！
・ ひとことに「環境」と言われている課題は、多くの問題が絡み合っているので、時間とお金と知恵を投じて息長く活動することが大事と痛感しました。

９月２６日　第１分科会　地球温暖化問題「ふみだそう地球を冷ます第１歩」

・ 「もったいない」をキーワードにライフスタイルを変えていこうと思いました。
・ ワークショップにひとこと・・・。人数が多すぎ、時間制限もあって思うように話せなかった。１人１回の発言は意見にならない。
・ 地球温暖化防止に多少興味があっても、グループ討議や講演（日航財団の話はとても聞きやすくまとまっていた）は、話が長く少し苦痛だった。無関心層を巻き込むのは大変ですね。
・ 中田千葉工大教授のお話は、工学専門家の雰囲気ではなく、思想家を連想させる語り口でした。賢治、兼好法師、老子・・・などなどの名言が、次々に紹介され刺激を受けました。OHP の資料は、プリント資料以上によいもので、どんどん消えてしまうのが残念でした。
・ モーニング娘。の話がよかった。今日の収穫。
・ 突然の参加者増加で、資料が足りなくなるほどだった。雨が降らなかったら、もっと多かったのかも。

全体会：平成 16 年 11 月 14 日（日）10 時～16 時 50 分
日本大学生産工学部津田沼キャンパス　基調講演；千葉県副知事大槻幸一郎
内容：基調講演、表彰式、分科会報告、ﾎﾟｽﾀｰｾｯｼｮﾝ、ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ、提案
「今までのふりかえりから、これからの１０年活動を提案します」

８月のエコサロン

≪印旛沼について もっと知ろう≫

講師：　三品圭史　氏

環境パートナーシップが今年から進めている、「印旛沼をきれいにする活動」の一つとして、そしてもっと印旛沼について知りたいという目的で、８月のエコサロンは２０日（金）に千葉市コミニュティセンターにおいて開催されました。特に、印旛沼について、市民やＮＰＯが行政とどのように関わりあって行動していくことができるのか、その可能性を探ることも含めて、「印旛沼水循環健全化計画―今後の課題と市民参加」という表題で、千葉県土整備部河川計画課の企画調整室副主査の三品圭史氏よりお話を伺いました。

緊急行動計画をテキストに、印旛沼の現状について学びました。都市化などにより水質汚濁が進行し、水道水源である湖沼としては全国ワースト１となっている印旛沼、そして印旛沼の水源である流域の里山や谷津の環境が変容し、湖内では多くの在来動植物が減少するとともに、外来種が侵入するなど、自然環境も年々悪化している現状を知ることが出来ました。

そして、「印旛沼は流域の環境とわれわれの生活を映す鏡」なのです。水清く、自然の恵みにあふれ、穏やかで豊かな印旛沼を再生し、子どもたちに引き継いでいくために、印旛沼にかかわるすべての住民・企業・行政は今後ますます、それぞれの役割を認識し、協働して印旛沼の再生のために取り組んでいく必要があることを実感しました。

計画は、住民と行政が一体となって、当面できることを効率的かつ集中的に実行していくこととし、2010年を目安として、早期に実現可能な取り組みと、その役割分担を明確にした「緊急行動計画（中期構想）、印旛沼方式」を策定し、以下の５つの計画の取り組みを開始することになりました。

１）水循環の視点、流域の視点で総合的に解決する計画
２）印旛沼の地域特性に即した計画
３）“みためし”計画
４）住民と共に進める計画
５）行政間の相互連携による計画

この印旛沼方式の中で、印象に残ったのは、“みためし”と“住民と共に進める”計画です。みためしは、計画の実行状況をみながら必要に応じて見直すという従来にないやり方で、“住民と共に進める”計画とともに評価できると考えます。

“住民と共に進める”計画については、印旛沼再生に係わる市民・ＮＰＯ意見交換会として、以下のように開催されることになりましたので、お知らせします。

≪印旛沼再生に係わる市民・ＮＰＯ意見交換会に参加しませんか≫

開催趣旨：千葉県では、平成１６年２月に、恵み豊かな印旛沼の再生を目指し、できることから実行に移すための「緊急行動計画」を策定しました。計画について皆さんに知っていただき、取り組みの輪を広げていくため、市民・ＮＰＯの方々との意見交換会を開催します。なお、意見交換は、テーマ毎に分かれた分科会方式で行います。

日　　時：　平成１６年１１月１０日（水）　午後１時～５時
場　　所：　佐倉市立中央公民館（佐倉市鏑木町198番地3　JR佐倉駅、京成佐倉駅より徒歩20分）
申し込み方法：所定の申込書に必要事項を記入し、ＦＡＸでお申し込みください。
応募締切：　平成１６年１０月２９日（金）
問い合わせ先：千葉県県土整備部　河川計画課　企画調整室
（ＴＥＬ：０４３－２２３－３１５５　ＦＡＸ０４３－２２１－１９５０）

なお、詳細は印旛沼流域水循環健全化会議ウエブサイト（http://www.pref.chiba.jp/sc/inba-wcs）をご参照下さい。

～私のしている環境教育～［野鳥や本の読み聴かせを通じて］

茂原・鵜澤　洋子

都会の騒々しい環境から新治地区に引っ越しをした。今、我が家の裏山の崖の際にはキジの親子が住んでいる。井戸端の水を野鳥が飲みに来るので、バケツや洗面器に汲み置きをする様になった。お米のとぎ汁を草花や野菜にかけてこぼれたお米を野鳥が突っつきに来る様にもなった。小鳥が群れをなして、水に群がる姿に出会い、自然の中で人間と小動物のつながりの大切さを発見し、その楽しさを知った。

ある時、新治小の児童たちが「つばめ調査隊」として、燕の巣の調査をしにきたので、私はますます関心をもった。校長先生が学舎融合ということで「地域と児童が共通のテーマを持って、共に子育ての教育関係を作ろう」という事になった。私は学校のイベントにも積極的に参加し、「ぜひ燕のお話をさせてください」と教頭先生にお願いをすると OK が出た。秋田の北部の小学校で受けた教育をそのまんま、日の丸の旗を使い歌を歌ったり、当時の秋田の社会教育を話すと、皆にとても喜ばれた。すると、校長先生がボランティアで本の読み聴かせを提案してくれた。私は子どもの頃から学校と本や図書室が大好きだったので、早速、野鳥の話を題材にした本を選び、読み聴かせに通うようになった。

このように、私は自分が出来ることからはじめ、児童たちと接点を持つことができました。新治地区は自然の中にたくさんの野鳥が住み、環境が良いので、私は子や孫たちにこの大切な自然環境を残してやりたいと強く思っている。白鷺が舞い、渡り鳥が飛来してくるこのような土地で人間が楽しく住めたら良いなぁと思う。

２００４年国際米年記念フォーラム
～循環型新農業の確立をめざして～

ＮＰＯいんば　理事長　太田勲

世界人口約６３億人のうち、およそその半数が米を食べている。国際連合は２００２年に、人口の急増による食糧危機の到来を見据えて、２００４年を国際米年として定め、世界各国、各地域において、米の世界食料としての重要性について各国民に発信したものである。ＮＰＯいんばは、印旛沼流域約６，５００ヘクタールの水田地帯にあって、印旛沼の浄化にとり、農業者の立場にたった食の地方分権、地産地消を理念として、市民・消費者と連携することが不可欠であると決断し、このフォーラムを開催するものである。

記

日　時：**平成１６年１２月４日（土）１３時～１６時**
場　所：**佐倉市民音楽ホール**
特別講演：**「水と緑の国、日本」　富山和子氏**（国際米年日本委員会副会長、立正大学名誉教授、本会名誉顧問）
事例発表１．印旛沼環境保全に向けた、学童による稲作体験ー佐倉市立臼井小学校
事例発表２．有機肥料“米の精”、循環型農業についてー吉田義男氏

富山和子氏のプロフィール
群馬県生まれ。早稲田大学文学部卒業。水問題を林業の問題にまで深め、水田はダムの理論を提唱。「日本のレイチェル・カールソン」と呼ばれている。著書「水と緑と土」「水と緑の国、日本」「川は生きている」「お米は生きている」は環境問題、農業理解のバイブル。

「こどもホタレンジャー」活動を募集します！

環境省ではホタルを守る子供達の活動（こどもホタレンジャー）事例を募集しています。立派な活動は環境大臣から表彰されますので，奮ってご応募ください。応募対象は小学生・中学生が活動中心の団体・グループで，ホタル，水環境保全に関連した活動。応募用紙と活動レポートを平成17年1月20日（必着）までに郵送。詳しくは環境省HP（http://www.env.go.jp/water/info/hotaranger.html）をご覧下さい。または，千葉県庁水質保全課（TEL:043-223-3816）千葉県環境研究センター小倉（h.ogr3@mc.pref.chiba.jp）までお問い合わせください。

お知らせコーナ

★　エコサロン
≪もっと知ろう環境ホルモン≫
日時：１０月２２日（金）１０時～１１時３０分
会場：千葉市中央コミニュティセンター講習室(６１号室)
講師　森　千里　医学博士　千葉大学　大学院教授（環境生命医学）
講演内容　『なぜ、いま環境ホルモンなのか』
参加費：５００円（資料代)、どなたでもどうぞ。
申し込み　事業部　中岡丈恵
ＦＡＸ047-385-8950 e-mail naka.hta@trust.ocn.ne.jp

★　SAVE21 東京湾まち育てワークショップ
SAVE21　HP　http://www.yasumoto.com/save21/
日時：2004年10月23日（土）　9:30～15:30
場所：浦安市～三番瀬近辺
プログラム（予定）
09:30　開始
09:40　前年度活動成果報告
10:30　「音の環境学習」を体験してみよう
Step1：三番瀬での環境体験
12:45　昼休み
13:15　音ワークショップ開始
Step2：音整理・音の感想・議論
Step3：どんな音がある三番瀬・東京湾になったらいいかな「夢づくり」
Step4：音づくり／楽器／寸劇製作
Step5：発表
15:15　まとめ・15:30終了
問い合わせ・申込み
e-mail　webmaster@yasumoto.com

★～花見川から新川を歩いてみませんか～
初冬の花見川には、たくさんの冬鳥が飛来しています。印旛沼の放水路として作られた花見川から新川を、自然、文化、歴史、水のこと、など・・・
ご一緒に歩きながら、語り合いませんか・・・
日時：１２月５日(日)　午前９：45～午後２時。
（雨天は中止）
集合場所：京成八千代台駅ロータリー（ユアエルム側）
9：45(集合)
参加費：１００円(保険料)
主催：環境パートナーシップちば
コース：花見川（花島観音）～新川～大和田排水機場～八千代市文化伝承館
持ち物：お弁当、水筒、双眼鏡など。
（約6Kmの平坦なコースですが、歩きやすい服装でご参加下さい。）
参加申し込み：　１１月２７日までに、
電話、fax、メールにてお申し込み下さい。
TEL　090-54159074　FAX　043-258-5437(桑波田)
e-mail　kuwahatak@hotmail.com

★　とりもどそう生き物　豊かな東京湾
～市民と行政の取組み～
日時：平成１６年１０月２３日（土）10：00～3：00
会場：江戸東京博物館１Ｆホール（東京都墨田区）
主催：東京湾岸自治体環境保全会議
講演：環境省　　参加費：無料　　定員：４５０名
申込み：ハガキ、ＦＡＸ、メールにてお名前、団体名、住所、電話＆ＦＡＸ、参加予定人数をお知らせの上、お申込みください。
浦安市環境部環境保全課（浦安市猫実1-1-1）
ＦＡＸ０４７－３８１－７２２１
ｅ－ｍａｉｌ　info@tokyowangan.jp

★　“エコメッセちば　2004”が
～地球と私たちのためのエコスタイルフェアー～“エコプロダクツ　2004”に参加します。
日時：１２月９日(木)～１１日(土)10：00～17：00
会場：東京ビッグサイト
主催：(社)産業環境管理組合、日本経済新聞社
入場無料！詳しくはHPをどうぞ。http://eco-pro.com

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境啓発ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境啓発ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		